

「原数値」と「季節調整値」

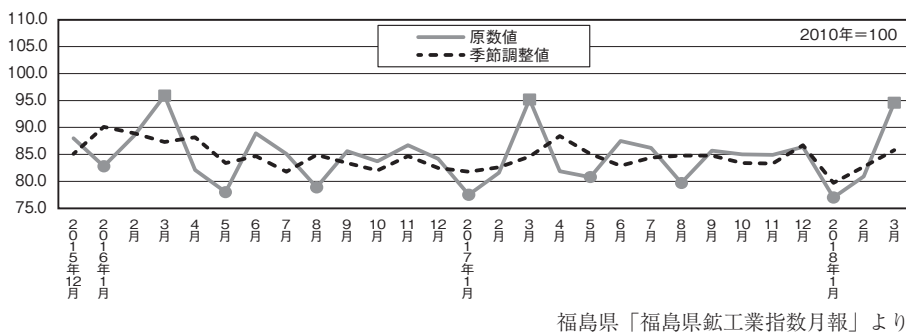
国などが発表する統計データを見ると、注意書きとして「原数値」「季節調整値」と表示されていることがあります。

1. 「季節調整」とは？

経済や産業などの動向を把握する場合に利用する各種統計データを時系列でみると、基本的に毎年同じような動きを示していることがわかります。たとえば、雇用情勢を把握するための指標である「完全失業率」は、定年や契約満了などにより離職者が増加する毎年4月が高い数値となります。また、生産活動の全体的な水準の推移を把握する指標である「鉱工業生産指数」について、月単位の生産量は休日・休暇が多いゴールデンウィークや年末・年始の該当月が低くなるなど、生産日数の多寡に影響される傾向があります（図表1参照）。さらに、ビールや清涼飲料水などは、7月など暑い夏季に生産量（出荷量）がピークとなります。当該月の数値がよくなっているのか、あるいは悪くなっているのかを判断するために、月ごと、4半期ごとなど時系列の数値の変化に注目することが重要ですが、その際にはこれらの季節的要因による影響を割り引いて考えることが必要となります。

統計データにおいて、「生」のデータを「原数値（原指数）」といい、原数値から季節的要素を割り引いて算出したデータを「季節調整値（季節調整指数）」といいます。同一の月を比較する「前年比」「前年度比」は季節的要素の影響がないと考えられることから「原数値」を使用する一方、「前月比」「前期比」など比較的短期間での時系列比較は「季節調整値」を使用することが一般的です（本誌45ページ、福島経済マンスリー「県内経済動向の概要」参照）。

図表1 福島県鉱工業生産指数の推移



原数値をみると、年度末（決算月）の3月に上昇、年末年始休暇やゴールデンウィーク、お盆休暇のある1月、5月、8月に下降する傾向がある。季節調整値にはそのような共通した傾向はみられない。

2. 季節変動の要素例

- (1) 自然条件
天候や気温など季節による自然現象の変化（ビール・清涼飲料水、使用電力量など）
- (2) 暦、営業日数
月による日数の違い（2月など）、祝日数（ゴールデンウィークなど）、お盆・年末年始休暇
- (3) 制度・習慣
中元・歳暮、ボーナスによる売上増加（7月、12月など）
- (4) 決算期
業績アップをにらんだ決算月の特別販売強化（3・9月の新車販売台数など）

閑話ひとつ

- ▶ 今年が戊辰戦争150年。県内外で関連するイベントや新聞の連載企画等が盛んに行われ、また様々な視点から明治維新や戊辰戦争を問い直す書籍も相次いで出版されています。
- ▶ 戊辰戦争といえば、30年前に放送されたドラマ「白虎隊」の主題歌「愛しき日々」（堀内孝雄）が思い浮かびます。「NHK 紅白歌合戦」で3度歌われ、カラオケなどでも根強い人気があります。
- ▶ 「風の流れの激しさに」で始まり、「かたくなまでのひとすじの道、愚か者だと笑いますか」「気まじめすぎたまっすぐな愛、不器用者と笑いますか」と、当時の時代背景と今も受け継がれる会津人の気質を作詞の小椋佳さんが見事に表現してくれました。
- ▶ 「もう少し時がゆるやかであったなら」「もう少し時が優しさを投げたなら」と琴線に触れる歌詞が並びますが、時の流れは人を待たないのが世の常。しばしば“時”が見せる厳しさに人はたじろぎます。
- ▶ 急激な時代の流れ、社会の変化に私たちはどう向き合うか。改めて「歴史に学ぶ」の思いを強くする戊辰戦争150年です。

(YM)